

A. 日 時 2014年2月14日 金曜日 17時30分～19時30分

B. 場 所 本会会議室

C. 出席者 松本他、計9名

D. 提出資料（提出委員名も記入して下さい）

No. 05-01：第04回環境振動性能評価小委員会 議事録（案）

No. 05-02：大会梗概レビュー

E. 審議事項

1. 議事録確認

資料05-01「第04回環境振動性能評価小委員会 議事録（案）」について報告

※ 前回委員会議事録内容の確認

→ 訂正@P1 24行：×運営員会報告、○運営委員会報告

→ それ以外の項目は承認された

2. 運営委員会報告

A) 2014年度大会について松本主査より報告

→ 2014年9月12日から14日、神戸大学にて開催

→ 大会梗概の投稿締め切りは4月8日12時（電子投稿）

3. 議論

A) 資料05-02「大会梗概レビュー」について報告

※ 地震時の室内安全性（家具の移動や避難困難度等）に関する諸研究について

→ 家具を対象とした場合には、家具ごとの振動特性が異なるので一様の評価は難しい

→ 家具の固定度を高めることにより安全性を確保する思想が支配的か

→ 構造系の研究では最大加速度による一元的評価を採用する場合が見られるので、周波数成分への配慮も必要であると考えられる（@家具の移動や転倒に関する研究）

→ 避難行動に関しても、加速度一元評価のみならず、建築物の固有周期等を考慮した周期成分の影響や時間経過による影響度等への配慮に関しても研究の余地はあるものと思われる

→ 環境振動分野からのアプローチとしては、人体主体で、避難等の行動限界や、心理面への影響等が考えられる

---

B) 2014年環境振動シンポジウムについて

※ 居住性能評価のスタンスについて

→ “「人体側」からの評価のみならず「建物」としての純粋な評価が必要ではないか?”との指摘がシンポジウム時になされた

→ 音響分野等では建物自身の「相対的な」性能評価が採用される場合が多く見られるが、環境振動分野においては周辺環境の変化による居住性能への影響が過多であること等からも「絶対的な」評価が相応しいと思われる

※ 中小規模地震に関する検討の必要性について

→ これまでは苦情として取り上げられることもなく（居住者からは許容されていた問題）、検討項目からはブランクであった

→ 要求性能の向上とともに必要検討項目として持ち上がる可能性は否定出来ない

3. 次回以降の課題

※ 「居住性能評価指針」と「設計指針」の位置づけについて

※ 評価指針への提言

※ 環境振動に関するホットな話題を随時募集

※ 評価WGでの活動内容の報告

※ 担当者ごとに大会論文の中より興味のある項目を各担当者の立場から紹介

---

次回の当委員会は、2014年5月12日（月曜日）17時30分より本会会議室で開催します。

資料を提出される方は、あらかじめ準備(14部)されるか、もしくは2日前までに本小委員会のオンラインストレージまでアップロードお願いいたします。